



# 学校だより

教育目標：元氣な子ども・考える子ども・思いやる子ども

令和3年度教育活動アンケート特別号

令和4年2月15日

練馬区立田柄第二小学校

校長 岩井 一雄

## 令和3年度教育活動アンケートの結果報告

梅の花の開花に春の近づきを感じる今日この頃、保護者の皆様にはご健勝のことと思います。日頃より本校の教育活動に、ご理解ご支援をいただきありがとうございます。

さて、12月に行いました、児童・保護者・教職員を対象としたアンケートの結果をまとめましたのでご報告します。

これまでの本校の取り組みに対して振り返るとともに、今回の結果をもとにして、来年度以降より良い教育活動を進めていくために、改善を図ってまいります。

### 表記について

- 10の項目について、児童・保護者・教職員の回答をそれぞれパーセンテージで表しています。
- 対象者によって、「問い」の表記に若干の違いがあります。

### 回答率

児童	100%
保護者	72.3% (昨年度 94.8%)
教員	100%

今回から、保護者の方に紙面での回答と、オンラインでの回答を選んでいただけるようにしました。回答しやすさを考慮しましたが、集計してみると回答率が下がる結果となりました。より多くの方からのご意見をいただくために、回答方法については、今後改めて検討します。

### ① 学習意欲について 子供たちの学ぶ意欲や、授業での様子についてたずねました。

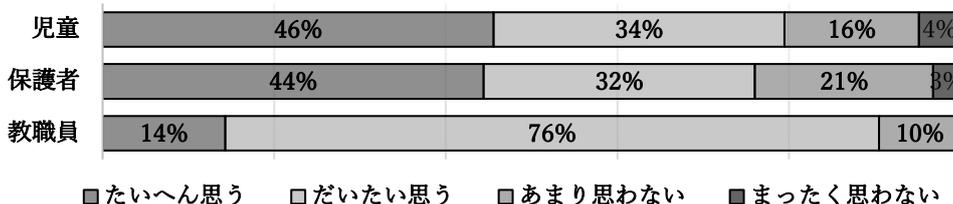
- 児童 じゅぎょう中はたくさん手をあげてはつ言している。  
 保護者 子供は学習に積極的に取り組んでいる(家庭学習を含む)。  
 教職員 子供たちが学習活動に積極的に取り組むよう、授業や宿題等を工夫している。



保護者の方からの評価では、「大変思う」の数値が、昨年度より26%UPしました。一方2割の児童と保護者の方から学習へ向かう意欲に課題があることが分かりました。子供たちが学ぶことを楽しいと思える授業が行えるよう、教職員一同改めて研鑽してまいります。

### ② 運動習慣について 日常的に体を動かしているかをたずねました。

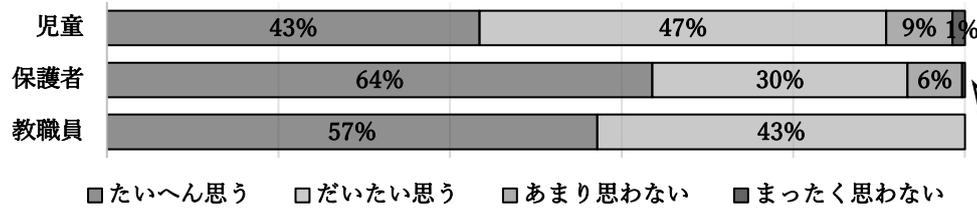
- 児童 たいいくや外あそびをがんばっている。  
 保護者 子供は運動に積極的に取り組んでいる  
 教職員 子供たちが運動や外遊びに積極的に取り組むように、日頃から心がけて指導している。



コロナの影響で、学校生活の中での「運動」の機会が制限されてしまっており、体育の授業等でも、感染対策を最優先にしながらの指導を余儀なくされています。今までできなかったことができない状況が続いているのは大変残念ですが、広い校庭で思い切り体を動かせるよう、休み時間などでは外で体を動かすよう、声をかけていきます。

③ 規範意識について 身の回りの約束を守って過ごしているかをたずねました。

児童 学校やクラスのルールをまもることができる。  
 保護者 子供は、学校のルールや家庭のルールを守ることができる。  
 教職員 子供たちが学校のルールや家庭のルールを守ることができるように、日頃から心がけて指導している。

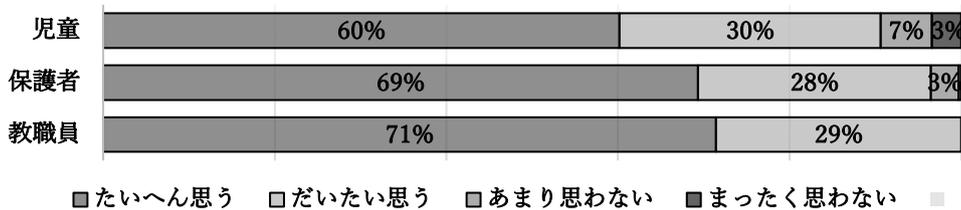


例えば、「人の話は静かに聞く」や「廊下は走らない」といった集団生活の中で守るべき約束については、子供たちが意識している様子が見られますが、「通学路でのマナー」等、個人での規範意識については、今後しっかり指導をする必要があると考えています。

本校では道徳の授業等を通して、「みんなが気持ちよく生活できるように心をくばる」ということについて考えており、子供自身の規範意識に対する自覚が高まるよう、実践と振り返りを重ねていきます。

④ 学校行事について ダンスフェスティバルや展覧会等への意欲についてたずねました。

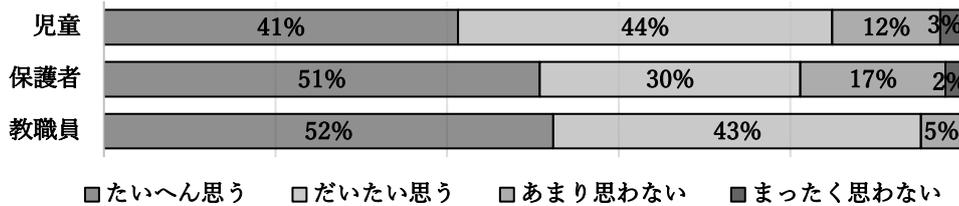
児童 学校の行事にたのしく参加している。  
 保護者 子供は、学校行事に参加して、自分が成長することができたと感じている。  
 教職員 行事を通して、子供たちを育てようと心がけて指導にあたっている。



新たな取り組みとなった「ダンスフェスティバル」ですが、子供たちの魅力があふれた行事となりました。  
 一方学芸会がなくなってしまったことは、楽しみにしていた子供たちにとっては、残念なことだったと思います。今後も「恒例行事の再構築」を検討しながら、充実した取り組みを目指します。

⑤ あいさつについて 周りの人に進んで挨拶をしているかをたずねました。

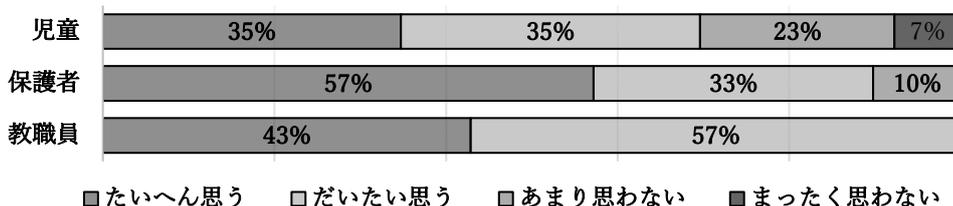
児童 先生や主事さん、友だちにげんきよくあいさつすることができる。  
 保護者 子供は、自分から進んで、元気よく挨拶をすることができる。  
 教職員 子供たちが、自分から進んで元気よくあいさつすることができるように、日頃から心がけて指導している。



田二小の子供たちは気持ちよい挨拶ができる子供が多いですが、結果を見ると、挨拶を苦手と感じている子供いることがわかります。  
 学校では、「自分から進んで挨拶しよう」という声掛けをよくしますが、「強いられた挨拶」ではなく、「自然に交わせる挨拶」ができるよう指導していきます。

⑥ 心のケアについて 悩んだり困ったりしたときに、相談することができるかをたずねました。

児童 なやんだりこまったりしたときは、おうちのひとや先生におはなしできる。  
 保護者 子供は、悩んだり困ったりしたときに、お家の人や先生に相談することができる。  
 教職員 子供たちの悩みに気付けるように、日頃から心がけ、親身になって子供たちの相談に乗っている。



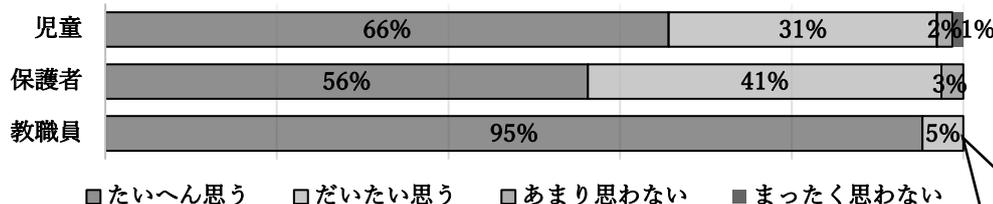
相談することに抵抗を感じている児童が3割程いることがわかりました。学校では、「誰でも、いつでも、どんな事でも」相談できるという環境を整え、子供が悩みを抱え込まないよう支援していきます。  
 また、日頃から子供の様子をしっかりと見て、「話したくても話せない」という子に対して働きかけ、悩んでいる子の早期発見に努めます。

⑦ 安全な過ごし方について 交通事故や災害、感染から自分の体を守ることができているかをたずねました。

児童 安全に気をつけて生活することができる。

保護者 子供は、「自分の命は自分で守る」ために、安全に気をつけて生活することができる。

教職員 子供たちが、「自分の命は自分で守る」ために、安全に気をつけて生活することができるように指導している。



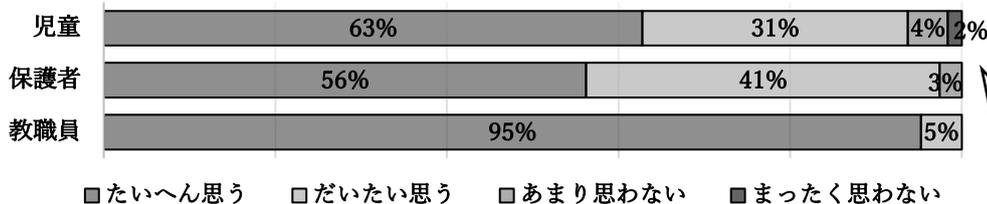
「With コロナ」が当たり前となり、自分の身を守る意識の高まりが読み取れます。これもご家庭で協力があってこそです。今後も感染予防等について、ご理解ご協力をお願いします。  
また、交通安全についても事故に遭わないように引き続き指導していきます。

⑧ いじめについて いじめはいけないという認識をたずねました。

児童 いじめは、ぜったいにしません。

保護者 子供は、いじめを絶対にしないように努力している。

教職員 いじめは絶対に許さないという態度で指導を行っている。またいじめが起きたときは、速やかに対応している。



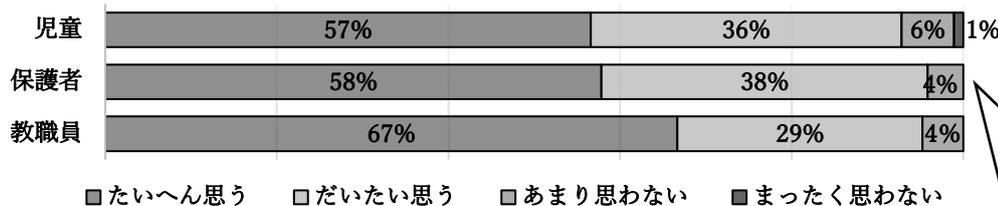
児童の中に「あまり思わない」「まったく思わない」との回答が見られました。これらの児童については、丁寧な対応をするとともに、日常的に保護者の方とこまめに情報交換をして、学校での出来事、子供のつぶやき等、子供の様子が「見えない・分からない」状態を作らないようにします。

⑨ 友だちとの関係について 周りの人と良い関係を築くことができるかをたずねました。

児童 だれとでもなかよくできる。

保護者 子供は、友だちの良いところを認め、だれとでも仲良くしようと努力している。

教職員 子供たちが友だちの良いところを認め、誰とでも仲良くできるように、日頃から心がけて指導している。



いろいろな友達との関わることでたくさんのお話を学ぶことができます。しかし、初めからうまくいくわけではなく、試行錯誤しながら他者への理解を深め、自分自身に対する気づきも生まれてきます。  
学校では、担任はもちろんのこと、専科の教員についても、子供たちの人間関係にも配慮しながら、成長を見守っていきます。

⑩ 持ち物や情報の管理について 学校で必要な持ち物や、連絡等の情報をしっかり管理できているかをたずねました。

児童 わすれものをしないようがんばっている。

保護者 教育活動に関する必要な情報を学校から受け取っている。

教職員 教育活動に関する必要な情報を、適宜家庭に発信している。



学校からのお知らせが、プリントやメール、さらにはタブレットなど、多様になっていますが、保護者の皆様には、様々な連絡にもしっかりと対応していただいております。ありがとうございます。子供たちもタブレットを活用しての連絡など、上手に使いこなすことができます。

# アンケートを振り返って

昨年度の結果と比較して、回答の数値に変化があったのは以下の通りです。

## △UP・・・数値が上がったもの

学習意欲(保護者5p)、規範意識(保護者4p)、挨拶(保護者3p)、  
安全な過ごし方(保護者6p)

## ▼DOWN・・・数値が下がったもの

学校行事(児童3p)、心のケア(児童6p・保護者3p)

コロナ禍での教育活動が2年目となり、多くの制限のある中、  
全校の児童が集まる行事や地域の方との交流など、これまでできていたことができなくなりました。  
その分、学校生活の一番基本的なこと(授業や生活態度など)について、  
じっくり時間をかけて指導することができています。  
そのことが、数値が上がった項目に表れているようです。

一方、数値が下がってしまった項目からは、  
子供たちにとっての楽しみである、行事や校外学習などが縮小され、  
思い切り力を出したり、仲間と一緒に取り組んだりという機会が減ってしまったことで  
子供たちが、物足りなさを感じていることも読み取れます。

来年度、どのような状況であったとしても、  
子供たちが学校生活の中で躍動できるような教育活動を目指します。  
そのためには、基礎的基本的なことを大切にしつつ、  
従来通りではない新しい発想での学校行事や地域との交流などを提案していきます。

アンケートの結果から読み取れた現状と課題を教職員一同共有し、  
田二小の子供たちと保護者や地域のみなさまに、  
さらにご支援いただけるような教育活動をすすめていきますので、  
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

